

国府台病院「消化器・肝臓内科」後期研修(レジデント)プログラム

国立国際医療研究センター国府台病院は、国立がん研究センターや国立精神・神経医療研究センターなど、全国に6センター・8病院ある「高度専門医療に関する研究等を行う国立研究開発法人(ナショナルセンター:NC)」のひとつです。NCは国民の健康に重大な影響のある特定の疾患等に係る医療に関して、調査・研究および技術の開発やこれらの業務に関連する医療の提供、技術者の研修等を行うことを目的としています。国立国際医療研究センターは「感染症その他の疾患に関する高度かつ専門的な医療、医療に係る国際協力等の向上」をミッションとしていますが、中でも国府台病院に併設された肝炎・免疫研究センターにおいて、遺伝子解析など最先端の技術を駆使して肝疾患の病態解明や治療法の開発に取り組んでおります。



肝炎・免疫研究センター
2012年春に完成しました！

研修医・医師の皆さん
国府台病院消化器科のホームページによろこそ！

消化器科の見学希望、本ページに関するご意見、ご質問は
「消化器・肝臓内科」診療科長 今村 雅俊

dmimamura@hospk.ncgm.go.jp

までお願いします。

プログラムの特徴

消化器・肝臓内科の診療は、主として消化管疾患を扱う消化器光学診療部と、肝胆膵疾患を扱う肝炎診療部と合同で行われています。両者は同じ消化器内科医としてお互いを補完しながら有機的かつ円滑に治療が行えるよう密接に連携しています。

診療スタッフは、本邦医学界のリーダーである上村直実病院長と考藤達哉肝炎・免疫研究センター長を頂点に集結した多彩で経験豊かな臨床医であり、各領域とも最先端の医療を提供できる環境にあります。

当科で研修を受けていただくレジデントの先生に対しては、指導医のマンツーマンでの徹底した教育が用意されています。実践的な技術・知識が効率よく習得できる工夫が施されているほか、疾患を通じて基礎研究の理解を深めるために、リサーチカンファレンスやジャーナルクラブを毎週開催しています。また、若い先生が将来に不安を抱かないように、専門医資格の取得はもとより連携大学を通じての博士号取得や海外留学も選択肢に入れてありますので、個々のニーズに合わせたテーラーメイドのカリキュラムを組むことができるのが特長と言えます。

国府台病院は新宿にあるセンター病院と連携していますので、相互の人材交流を通じてセンター病院で研修を受けることも可能です。さらに当センターのミッションのひとつである「国際医療協力」の業務を通じて、ベトナムやアフリカなど海外での医療活動を行う道も用意しています。

この様に、国府台病院は消化器病学を研修し、将来を考える上で恵まれた環境を有していると思います。若手医師の積極的な参加を希望しております。

教育病院関連施設資格

- 日本内科学会認定医制度教育病院
- 日本消化器病学会専門医認定施設
- 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設
- 日本肝臓学会認定施設
- 日本超音波医学会専門研修施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- 名古屋市立大学大学院連携講座

3年間の研修と到達目標

① 研修について

2年間の初期臨床研修を終了された先生を対象に、消化器・肝臓専門医を目指して消化器病領域全般にわたる幅広い知識と技能を習得していただくことを目的としています。消化器光学診療部および肝炎診療部に所属する複数の専門医・指導医の指導のもと、豊富な症例経験が可能です。3年間の研修で日本消化器病学会専門医、日本消化器内

視鏡学会専門医の取得に必要な症例数、経験を積むことができ、消化器内視鏡検査・治療、超音波検査、肝臓治療に必要な専門的診療技術の(一部もしくは全部の)習得を行って頂きます。

消化管疾患について…当科では消化管疾患に対してevidenceに基づいた、質の高い診断・治療を行うことを旨としています。特に内視鏡所見に基づいたヘリコバクター・ピロリ関連胃炎の病態から、胃機能や疾病リスクを考慮に入れた質の高いスクリーニング技術を身につけることを重要と考えています。悪性新生物に対しても拡大内視鏡の導入により、より精密な質的診断を行うと共にESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)やEMR(内視鏡的粘膜切除術)を用いて積極的な内視鏡治療を行っています。消化器科医師の初期研修を重要と考えており、若手中心のスタッフを中心に学問・手技面の教育を精力的に行っています。

肝疾患について…当院には肝炎の研究、診療レベルの向上を推進する全国拠点として設けられた肝炎・免疫研究センターが設置されています。全国の肝疾患拠点病院と連携して肝疾患の制圧に向けた取り組みを行っており、後期研修医は、診療、研究両面からこのような活動に参加することが可能です。2012年に完成した新研究棟は基礎と臨床の肝疾患研究に最適の環境であり、全国レベルの学会や国際学会での発表、質の高い論文発表を行うことが可能です。さらに、連携大学院機能を有していますので、臨床・基礎研究を行い、当院研修中に学位(博士号)を取得することも可能です。

② 3年間の到達目標

一般目標 General Instructional Objective (GIO)

日進月歩の高度な消化器医療を実践するために、消化器内科医として必要な臨床能力を習得し、問題解決型の思考過程を身につける。

行動目標 Specific Behavioral Objectives (SBO)

指導医とともに入院、外来患者を受け持ち、初期研修医の指導にもあたるなど、消化器内科チーム医療の修練を通して以下の目標を達成する。

1. 消化器疾患患者の医療面接、身体診察を適切に行うことができる。
2. 診断に至るための検査を適切に組み立てることができる。
3. 検査内容を理解し、その適応、禁忌について説明できる。
4. 検査結果を自分で判断できる。
5. 消化器科医として必要な検査(内視鏡検査、腹部超音波検査など)や処置などをおこなうことができる。
6. 治療方針を組み立てることができる。

7. 患者・家族に検査・治療の目的、内容、結果、合併症、代替の方法、予後等を易しく説明することができる。
8. 他の医療スタッフへ情報提供を適切に伝えることができる。
9. 文献検索など、必要な医療情報を収集できる。
10. 学会発表、論文作成の方法を学び、医学の向上に努めることができる。

③ コース概観

1. **消化器内科専修コース** 消化器内科専門医を目指し、消化管疾患に特化した後期研修を行う
2. **肝臓内科専修コース** 肝臓内科専門医を目指し、肝胆道疾患に特化した後期研修を行う
3. **消化器病総合コース** オールマイティーな消化器内科医を目指し、消化器病領域全般を総的に網羅した後期研修を行う(肝臓内科専修コースと消化器内科専修コースを原則年単位で組み合わせて選択)

内科認定医、総合内科専門医の受験資格に必要な内科他分野の症例経験も、院内ローテート研修を組み入れることで可能です。

コース選択例

1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目
消化管	肝臓(大学院)	→継続	→継続	→継続
消化管	消化管	消化管		
消化管	肝臓	肝臓		
統合内科	肝臓	消化管		

などなど、組み合わせは応相談。基本的に年単位(場合によっては半年単位)で希望のグループ(科)を選択し、自分の将来にとって最も適した研修を可能にします。

週間スケジュール例

	月	火	水	木	金
午前	内視鏡検査 超音波検査	内視鏡検査 超音波検査	内視鏡検査	内視鏡検査 新患カンファ	内視鏡検査 超音波検査
午後	内視鏡治療 肝癌治療 病棟会議 チャートカンファ	内視鏡治療 総回診 クリニカルカンファ	内視鏡治療 リサーチカンファ ジャーナルクラブ	内視鏡治療 肝癌治療 チーム回診	内視鏡治療

④ 当科の後期研修期間中に経験可能、ないし経験すべき疾患と手技

(個々人の将来目標に応じて、年間目標、研修期間中目標症例数を設定し、適宜フィードバックし、方向修正を行います。)

消化器

1) 早期消化管癌の診断と治療

早期消化器癌の拡大観察による質的診断、範囲診断

内視鏡治療(ESD)による早期胃癌、大腸癌、食道癌の内視鏡治療

2) 炎症性腸疾患の診断と治療

3) 機能性消化管障害(FGID)の診断と治療

過敏性腸症候群(IBS)

機能性ディスぺプシア(FD)

機能性便秘(FC)

4) 消化器癌の化学療法

肝臓

1) 肝炎の診断と治療

急性肝炎、劇症肝炎に対する集学的アプローチ

B型肝炎、C型肝炎に対する抗ウイルス療法

自己免疫性肝疾患

NASH

2) 肝硬変とその合併症の診断と治療

食道静脈瘤の待機的治療、緊急止血治療

腹水症のマネージメント

肝性脳症のマネージメント

3) 肝腫瘍の診断と治療

肝細胞癌(ラジオ波、肝動脈塞栓術、化学療法)

転移性肝腫瘍

4) 胆道系疾患の診断と治療

肝内、肝外胆管癌

総胆管結石や悪性胆道狭窄による閉塞性黄疸

スタッフ一覧

医師名	役職	出身大学(卒業年次) 及び主な職歴	資格など	専門領域及び 研究分野
上村 直実	病院長	広島大学(昭和54年卒) 米国アラバマ大学、 呉共済病院、 国立国際医療センター	日本消化器病学会専門医・指導医、 日本消化器内視鏡学会専門医・指 導医・理事、日本ヘリコバクテ ル学会専門医・理事、日本内科学会 認定内科医	消化器疾患の診 断と治療、ピロリ 菌と胃癌、消化 性潰瘍の病態な ど
溝上 雅史	ゲノム医科学プ ロジェクト長	名古屋市立大学 (昭和51年卒) 社会保険中京病院、 King's College Hospital Liver Unit、 名古屋市立大学	日本内科学会認定内科医・指導医、 日本消化器病学会専門医・指導医、 日本肝臓学会専門医・指導医、日本 消化器内視鏡学会専門医、日本感 染症学会専門医・指導医、日本輸血 細胞治療学会専門医、米国肝臓学 会(AASLD)、アジア太平洋肝臓学会 (APASL)	各種病原体と宿 主の遺伝子変異 の分子進化学的 解析とその臨床 応用
考藤 達哉	肝炎・免疫研究 センター長、肝 炎情報センタ ー長、第二肝疾 患室医長、肝疾 患先進医療研 究室長	大阪大学 (昭和61年卒) 大阪大学医学部附属病院、 大阪警察病院、 市立堺病院、 米国Pittsburgh大学外科、大 阪大学大学院医学系研究科 樹状細胞制御治療学	日本内科学会認定医・指導医・支部 評議員、日本消化器内視鏡学会專 門医、日本消化器病学会専門医・指 導医・学会評議員・支部評議 員、日本肝臓学会専門医・指導医・ 学会評議員・西部会評議員、日本消 化器免疫学会・学会評議員、日米医 学協力研究会専門部会研究員、 アメリカ肝臓病学会会員	消化器疾患、肝 疾患 肝炎、肝臓の 免疫 免疫細胞 治療の開発
今村 雅俊	肝臓内科診療 科長、 医療連携・広報 部門長(地域医 療連携室長)	山梨医科大学 (平成元年卒) JR東京総合病院、 東大附属病院、 関東中央病院、 三井記念病院、 国立国際医療センター 埼玉医科大学	日本内科学会認定内科医・指導医、 日本消化器病学会専門医・支部評 議員、日本肝臓学会専門医、日本超 音波医学会専門医・指導医、日本消 化器内視鏡学会専門医、臨床研修 指導医	消化器一般、肝 胆膵疾患(特に 肝臓の診断・治 療)

是永 匡紹	第一肝疾患室 医長、 肝疾患研修室 長	山口大学(平成4年卒) 徳山中央病院、 愛媛労災病院 米国テキサス大学 川崎医科大学	日本内科学会認定内科医・指導医、 日本消化器病学会専門医・指導医・ 学会評議員、日本肝臓学会専門医・ 指導医・評議員、日本消化器内視鏡 学会専門医・指導医・支部会評議 員、日本栄養病態学会評議員、米国 肝臓学会員、欧州肝臓学会員、ICD (インフェクションコントロールドク ター)	消化器病一般、 肝臓病の病態と 治療(特に肝炎 に対する抗ウイル ス療法、肝疾 患における糖、脂 質異常の治療) 肝発癌と酸化スト レス
大澤 陽介	第三肝疾患室 医長、肝疾患 医療情報室長	岐阜大学 (平成8年卒) 岐阜大学医学部附属病院 コロムビア大学 都立駒込病院	日本肝臓学会専門医 日本消化器 病学会専門医・指導医 日本消化 器内視鏡学会専門医・指導医 日 本ヘリコバクター学会専門医 日 本内科学会認定総合内科専門医	肝臓内科、消化 器内科
小飯塚 仁彦	消化器科診療 科長、副内科 系統括診療部 門長	岩手医科大学 (平成11年卒) 国立国際医療センター	日本内科学会認定内科医、日本消 化器内視鏡学会専門医・指導医、日 本消化器病学会専門医・指導医、臨 床研修指導医	内視鏡診断・治 療、ヘリコバク ター関連胃炎
青木 孝彦	第二消化器科 医師	東京慈恵会医科大学 (平成15年卒) 東京慈恵会医科大学、 西埼玉中央病院	日本内科学会総合内科専門医、日 本肝臓学会専門医、日本消化器病 学会専門医、日本消化器内視鏡学 会員、日本臨床腫瘍学会員、日本超 音波医学会員、臨床研修指導医	肝臓病・消化器 病の診断・治療
矢田 智之	第一消化器科 医師	鳥取大学(平成17年卒) 松江赤十字病院、 国立国際医療センター	日本内科学会認定内科医、日本消 化器内視鏡学会専門医・指導医、日 本消化器病学会専門医、日本ヘリ コバクター学会認定医、日本消化 管学会胃腸科専門医・指導医、日本消化 器がん検診学会会員	消化管がんの内 視鏡診断・治療
板倉 由幸	第一消化器科 医師	岡山大学(平成22年卒) 松江赤十字病院	日本内科学会認定内科医、日本消 化器病学会専門医、日本肝臓学会 会員	消化器一般、内 視鏡
伊藤 光一	第一消化器科 医師(フェロー)	順天堂大学(平成23年卒) 順天堂医学部附属浦安病院	日本内科学会認定内科医、日本消 化器病学会会員、日本消化器内視 鏡学会会員	消化器一般
鈴木 桂悟	第一消化器科 医師(フェロー)	旭川医科大学 (平成23年卒) 国立国際医療研究センター国 府台病院	日本内科学会認定内科医、日本消 化器病学会会員、日本消化器内視 鏡学会会員、日本緩和医療学会会 員	消化器一般
池上 友梨佳	第一消化器科 医師(レジデン ト)	順天堂大学(平成25年卒) 国立国際医療研究センター国 府台病院	日本内科学会認定内科医、日本消 化器病学会会員、日本消化器内視 鏡学会会員	消化器一般
岩崎 秀治	第一消化器科 医師(レジデン ト)	鳥取大学(平成23年卒) 福岡和白病院 済世会福岡総合病院	日本内科学会認定医、日本消化器 病学会会員、日本肝臓学会会員、日 本消化器内視鏡学会会員	消化器一般
久野木 康仁	第一消化器科 医師(レジデン ト)	独協医科大学(平成26年卒) 国立国際医療研究センター国	日本内科学会会員 日本消化器病学会会員	消化器一般

	ト)	府台病院	日本消化器内視鏡学会会員	
八木 豊一	第一消化器科 医師(レジデ ン)	筑波大学(平成27年卒) 国立国際医療研究センター-国 府台病院		消化器一般

後期レジデント・若手医師からのひとこと

池上 友梨佳 (レジデント)	<p>消化器肝臓内科 後期レジデント 2 年目の池上友梨佳と申します。初期研修から引き続き当院で後期研修を行っております。</p> <p>当科で後期研修を行うにあたって利点と思われる点ですが、まず病棟では上級医の先生方と一対一でチームを組めることで、独自の診療に走ることなく正しい診療の指導を受けることができます。</p> <p>また、消化器内科は病棟業務の他にも内視鏡やエコー等の手技を身につけなければなりません。手技においてはそれぞれ均等に検査日が割り振られ、それぞれの手技を専門とした先生方から非常に高レベルな指導を受けることができます。若手医師の数も多くはないため、症例数も確保できません。</p> <p>これらは大学病院等の大規模な病院と比較して、中規模な市中病院だからこそできることだと思います。また、当院ではコメディカルの方々とも非常に距離が近いように思います。院内職業問わず顔見知りが多く、また看護師さん技師さん方は私たちレジデントの成長を温かく見守ってくださっているのが伝わってきます。さらに、日常診療や手技だけではなく、国立病院の役割として研究も行うことができます。学会発表の機会をいただいたり臨床研究を行うことができ、私は後期研修 1 年目で学会発表の機会を 3 回いただくことができました。</p> <p>以上、真面目な堅い話ばかりになっていますが、若手医師同士も大変仲が良く、みんなで楽しく教えあい助け合い、時には飲み会も開催しながら日々の診療を行っております。職場が楽しいというのは本当に幸せだと常に感じています。</p> <p>最後に当科の弱点として、救急疾患が少ないことが挙げられます。よって、内視鏡による止血術の数や ICU 管理を要するような重症症例はなかなか数をこなすことは難しいです。しかし、その分は希望すれば救急が盛んな他院での研修期間を設けてもらうことができるので、大きな問題にはならないかと思えます。</p> <p>長い文章になりましたが、文章だけでは伝えきれないことが沢山ありますので、ぜひ当科の様子を見にいらしていただけたらと思います。</p> <p>お待ちしております。</p>
-------------------	---